

新型コロナワクチンについて改めて考えよう！

知っておきたい5つのポイント

2024年の新型コロナで亡くなった方は約36,000人であり、インフルエンザによる死亡数の約2,900人を上回る数となっています。また、新型コロナによって重症化する割合は、65歳以上の年代で高く、重症化しやすいこの年代の方を対象に10月から定期接種を実施しています。



1 ワクチンの効果

新型コロナによる入院を
約**60%**予防

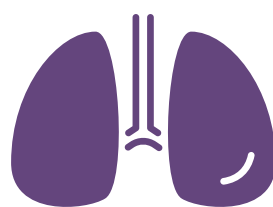
国内での、60歳以上の人におけるJN.1系統対応1価ワクチン接種の入院予防効果は、JN.1系統対応1価ワクチンを接種していない者と比較して63.2%だったことが報告されています。

VERSUS Study 第12報(2025), Vaccine Effectiveness Real-time Surveillance for SARS-CoV-2 (VERSUS) study 長崎大学熱帯医学研究所 <https://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/versus/>

2 接種対象者

65歳以上の方

または **60～64歳で**

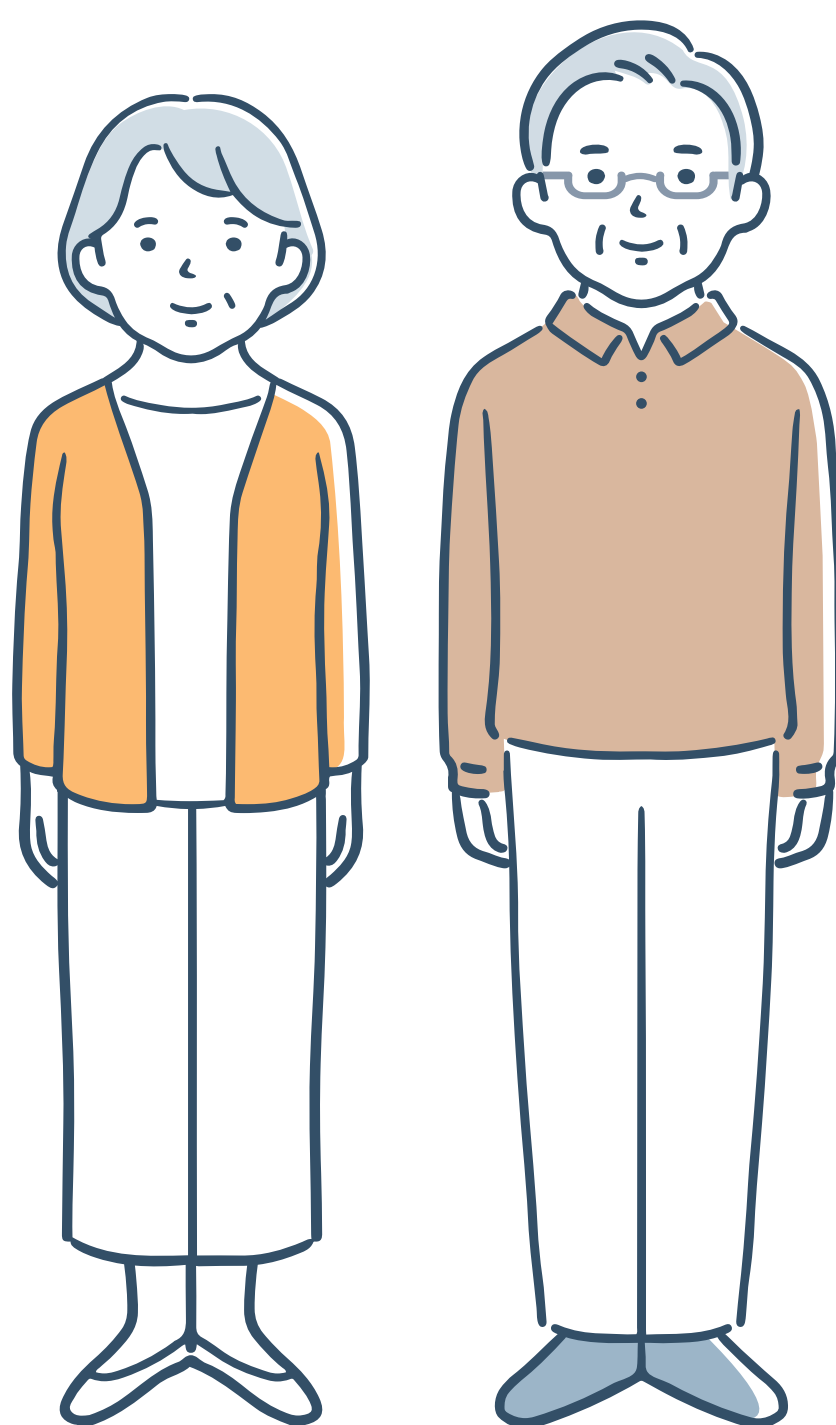


心臓や腎臓、呼吸器の機能に障害があり身の周りの生活を極度に制限される方。



ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり日常生活がほとんど不可能な方。

今年はどうしよう？
私たちは対象かな？



3 ワクチンの種類

5種類

※MeijiSeikaファルマ社は
レプリコンワクチン

mRNAワクチン

・ファイザー社・モデルナ社
・第一三共社
・Meiji Seikaファルマ社

組換えタンパクワクチン

・武田薬品社

※医療機関によって接種できるワクチンが異なる場合があるため、詳細は、お住まいの市町村(特別区を含む。以下同じ)にお問い合わせください

4 接種できる期間

10月1日～ なるべく
年内に
翌年3月31日

※自治体によって実施期間が異なる場合があるため、お住まいの市町村にお問い合わせください

5 ワクチンの安全性

各社のワクチンの主な副反応として、注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み等が報告されています。また、頻度は不明ですが、重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー、心筋炎、心膜炎が知られています。(心筋炎、心膜炎は、mRNAワクチンのみ)

予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあるため、救済制度が設けられています。制度の利用を申し込む時は、予防接種を受けたときに住民票を登録していた市町村に御相談下さい。

接種のお申し込み・お問い合わせはお住まいの市町村にご連絡ください

